

食べる日を心待ちに！

あさげ新聞



→三月十七日(日)飯田市北方で行われたシイタケ駒打ち体験に、親子三十八名が参加されました。詳細は以下に南信州新聞電子版の記事を掲載してあります。

【三月の主な活動】

1. 稲作事業

- ・稲のめぐみ施肥／耕起
- ・籾の消毒／浸種／催芽

2. 園芸事業

【野菜栽培】

- ・各種野菜の種まき
- ・野菜苗の定植(レタス／ブロッコリー／ロマネスコ／キャベツ)
- ・マルチ内の草取り(玉ねぎ)
- ・【とうもろこし栽培】

- ・耕起／石拾い／溝掘り
- ・一期分種まき(あんみつ姫三千四百粒、甘太郎四千粒)
- 3. 薬草事業
- ・ガス抜き耕起二回／側溝掘り
- 4. 加工事業
- 【味噌】
- ・個包装／出荷
- 5. 薬細工事業
- ・円座／猫つづら製作
- ・昼神温泉出湯五十周年記念
- ・水引コンテスト出品対応
- 6. その他
- ・薪の販売
- ・新圃場かんぱんの作製
- ・新規借用ハウスの草刈り／耕起

「駒うち体験」 新聞記事」

飯田市北方を中心に農業体験や年中行事の運営などを手掛ける任意団体「ハンクラッチ」(佐藤智英代表)は十七日、同地区の農場でシイタケの駒打ち体験会を初めて開いた。呼び掛けに応じた飯田下伊那地域の親子三十八人が参加し、力を合わせて種駒を原木に打ち込んだ。

シイタケの生育に適したナラ系の原木、五十本を提供した、阿南町西条の「あさげの里」のスタッフ二人が手伝い、電気ドリルを使って原木に穴を開ける方法などを指導。長さ約九十センチの原木の表面に、十八カ所の穴を開け、ハンマーを使って種駒を打ち込んだ。

親子で参加した同市松尾久井の男性は「売っているシイタケを食べるのではなく、駒打ちから成長を知ること子どもにとって貴重な体験になる」と話し、子の児童は「大きくなるのが楽しみ。早く食べたい」と笑顔を見せていた。

企画した佐藤さんは「食べる機会は多くても、作ることはあまりしないのがシイタケ。子どもたちの食育につなげていけたらと思うている。来年以降も続けたい」と話していた。駒打ちした原木は、各家庭に持ち帰った。食べられるようになるのは、二年後くらいという。

稲作事業 「籾の消毒浸種」

二十七、二十八日でコシヒカリの籾の消毒と浸種を行いました。今年はコシヒカリの苗を、六百六十五箱、白毛餅百箱の全部で、七百六十五箱の苗を用意します。

地域共生推進室 発行
【42号】
2024年4月4日発行

ご意見・質問は下記のメールまでどうぞお寄せ下さい。採用された方には旬の野菜をプレゼント！
mail ;
ta-hara@koaglobal.com

園芸事業

先月より各種野菜の種まきが始まっています。今月、社員の皆さんに苗の注文を取ったところ、キュウリ百十一本、ピーマン七十三本、トマト六十八本、ナス八十本、ミニトマト七十七本もの、たくさんのご注文を頂き、追加で種まきをしました。



十九日、ブロッコリー、ロマネスコ、キャベツなど葉物野菜の定植に向けて、畝を作り、苗を定植をしました。昨年秋季導入したマルチャーが良い仕事をしています。



「とうもろこし栽培」

今年はどうもろこしの収穫を一本でも上げた、圃場の確認も含め、石拾いから行っています。



二十六、二十七日の二日間、一期分のとうもろこし、あんみつ姫三千四百粒、甘太郎を四千粒を種まきしました。



その他の 「新ハウス」

以前トマトを生産していたハウス二棟を、借用して欲しいとの依頼を受けて、草刈りから実施しました。



ハウス内を耕起し、散水を行いました。キュウリの生産を考えていますが、地域の方からはトマトの生産者が減り、選果場の存続が危ぶられる中で、トマトの生産を期待されています。



「薪の販売」

十三日、七久里の杜から薪のご注文を頂き、軽トラ一車納品しました。良い薪だと高評価でした。また三十日には、株式会社岳様より、金野キャンフィールドへ納品のご依頼があり、五月納品予定です。

